



副代表幹事  
地方分権・道州制委員会 委員長  
**柏木 斉**  
リクルートホールディングス  
相談役

### Contents

■特集1	
2014年度 新副代表幹事 座談会 企業の自己革新を 成長の原動力に	02
■特集2	
第8回 教育フォーラム 勉強するのは何のため? 働くってどういうこと?	11
■Close-up 提言	
人財育成・活用委員会 提言 橋・フクシマ・咲江 委員長 トップマネジメント層のダイバーシティは グローバル競争力強化の契機となる	15
司法制度改革検討PT 提言 富山 和彦 委員長 多様な法曹を短期間で育成する 法曹養成制度改革が必要	17
雇用・労働市場委員会 提言 馬田 一 委員長 激変する社会状況に対応すべく フレキシブルな働き方を拡大せよ	19
■Doyukai Report	
被災地出張授業 「志と『日就月将』」 重山 俊彦 氏 キックマン 取締役	21
■Column	
巻頭言 柏木 斉 「自立した地方の実現を目指して」	01
リレートーク 秋池 玲子 「2020年に向けて」	23
私の思い出写真館 古内 耕太郎 「ビジョンと実行力」	26
新入会員紹介	24

## 「自立した地方の実現を目指して」

衆参両院で「地方分権の推進に関する決議」が採択された1993年から20年たちますが、「地方分権・道州制」については、さまざまな意見があり、特に市町村単位で合併が推進された平成の大合併に起因する分権疲れが、いまだに根深く残り、改革に対して慎重な意見が散見されます。

経済再生・財政再建の両面においては、中央集権型行政システムから、個性を活かし自立した地方を実現するための「転換」が必要です。たとえ地方に革新的なリーダーが登場しても、従前の枠組みでは、変革を進めることは難しく、新たな支援者やパートナーが求められています。

昨今、取り沙汰されている地方都市の消滅についても、東京だけが例外ではありません。これまで東京に一極集中していた人口が、地方より遅れて高齢化、ひいては人口減少に転じます。東京だけは今後も勝ち組であり続けるといった観念を捨て、都市部と地方の税収を調整し、水平的に補完し合うこと。そして、中央と対等な「地方」の実現を目指して、自立が難しい基礎自治体の行政を支援するという思いが大切です。

「地方」と企業の関係もしかり。リスクを取って挑戦する地方の意欲に応える形で協力し、地方の特色や強みを活かすパートナーになることです。

同じようなことが国家戦略特区でも言えます。困難ではありますが、次代につながる可能性に挑戦する意欲ある「地方」に手を挙げてもらい、成功事例をつくる。その先行事例をやがて横に展開することで、全体の能力を上げていくことを推進しようとしています。

「手を挙げて失敗したら」というプレッシャーと実際に戦うことは、大変な勇気が必要です。今こそが自治体の自立を応援する流れにできるかの重要な分岐点だと思っています。

権限移譲・規制緩和に伴う地方分権はある程度進みましたが、国と地方、県と市町村という団体間の事務分担の変更が中心で、住民はそのメリットを十分に理解できているとは言えません。自治体が個性を活かし自立した意思決定を行うためには、住民の理解と参加が必要ですが、これは行政の永遠のテーマです。事業仕分けのような場はむしろ地方でこそ必要で、フェイスブックのようなSNS等を活用して、住民の理解と参加に向けて、丁寧に積み重ねていくしかありません。

住民は、地域の実情を知らないから、今の自分の生活が第一であり、地域に無関心でいるのかもしれませんが。哲学者、西田幾多郎氏がその著書『善の研究』の中で、このような言葉を残しています。

「物を知るにはこれを愛せねばならず、物を愛するのはこれを知らねばならぬ」

「住民の理解」、それは地域への愛、知れば知るほど好きになる、愛着が湧いてくるという「知は愛、愛は知」の連鎖が、個性を活かし自立した地方をつくる礎であると、私は思います。

今月の表紙：世界の文様シリーズ

### 【フランス/アンティーク・フロアタイル柄】

フランスでは、さまざまな「芸術美」が生まれ、集まり、蓄積されています。それがフランス文化の奥深さです。アンティークな文様には、格調の高さを感じられます。